



身近で起きた台風19号（2020年10月12日～）

令和元年東日本台風とも呼ばれ、日本中の広い範囲で大雨、強風などの被害をもたらした台風。2019年10月6日にマリアナ諸島の海上で発生し、強い勢力で暴風雨を伴ったまま、12日静岡県伊豆半島に上陸した。

人的被害は九州地方から東北地方まで広がり、土砂災害や河川氾濫が相次いだ。台風の進路上、関東の都市部にも被害をもたらした台風であり、身近では多摩川沿線に多くの浸水被害が起きた。多摩川支流の三沢川が内水氾濫を起こし、JR南部線沿いの菅稲田堤、布田などの地域が浸水した。

当時、多摩川の氾濫における浸水の恐れがあり、川崎市は多摩区の想定地域に警戒レベル4（危険な場所から全員避難）の避難勧告を発令した。避難者の人数は土砂災害警戒区域の避難所を含む計18カ所の避難所でおよそ8000人にもなった。

12日22時の時点で避難者が最も多かったのは中野島小学校で、全体の2割にあたる1620人の避難者が集った。

計画敷地

神奈川県川崎市多摩区中野島3丁目12-1
（現・川崎市立中野島小学校）

- ・JR南部線中野島駅より徒歩4分
- ・周囲は住宅が多く、老人ホームや保育園などの施設も充実していて、人の多い地域
- ・内水氾濫による浸水が10cm～20cm想定されている場所ではあるが、近隣の避難施設に比べると多摩川や三沢川、二ヶ領本川などの河川から離れた場所に位置する

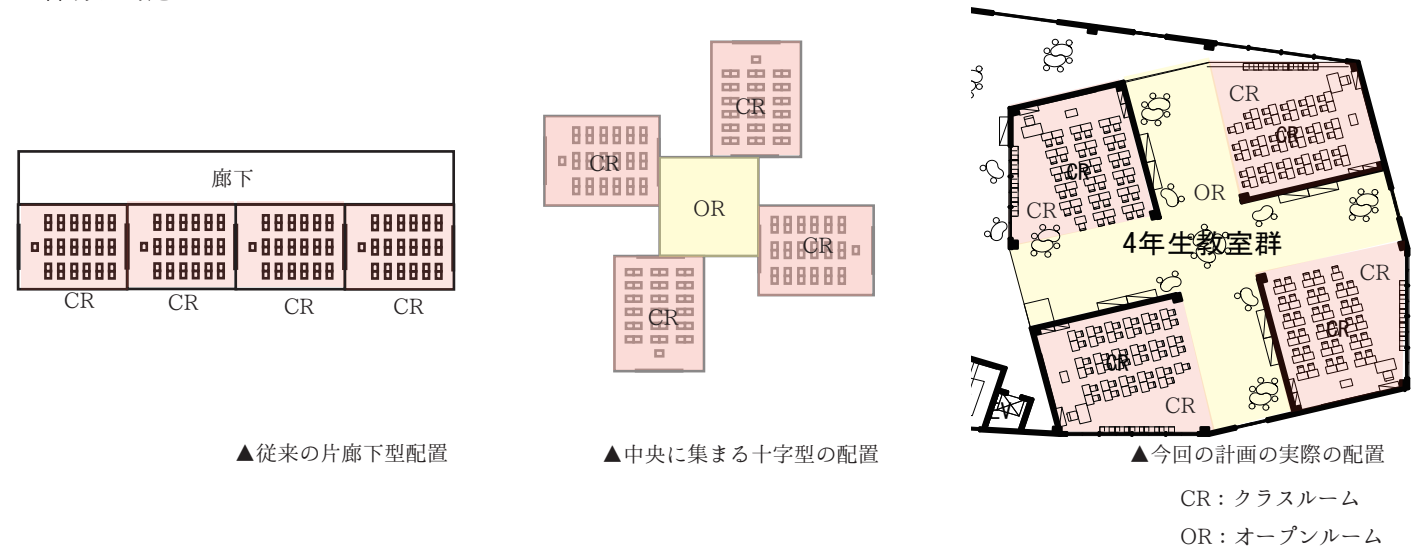


コンセプト

「通常時も災害時も、ひらかれた小学校」

通常時は学習の場として講義型と体験型、どちらの授業もスムーズに行うため、オープンスペースとクラスルームが行き来しやすい十字型に「ひらかれた形」を展開。

災害時には体育館だけでなく各クラスも開放することで多くの避難者を受け入れられ、壁が少ないので人数の変動にも容易に対応できる。



共助で災害に強い小学校

菅原 星良

災害時には避難所となる小学校だが、総合教室型では一教室に入れる人数が決まっておき、知り合い同士でも近くで生活して助け合うことが難しい。一方日常の学びの場としては、習熟度学習で個人の能力を伸ばす環境が必要だと考え、自由な空間構成のできるオープンスクールを提案する。